



1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)新発寒2条1丁目計画 マックスバリュ棟	階数	地上1F
建設地	札幌市手稲区新発寒2条1丁目1115番314の内	構造	S造
用途地域	第1種住居地域	平均居住人員	- 人
気候区分	2地域	年間使用時間	5,500 時間/年
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年10月 予定	評価の実施日	2017/4等
敷地面積	7,471 m ²	作成者	
建築面積	3,094 m ²	確認日	2017/4等
延床面積	2,975 m ²	確認者	

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.0 ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 **Q のスコア = 2.9**

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.4

LR 環境負荷低減性 **LR のスコア = 3.1**

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 設計上の配慮事項

総合 ・複合店舗の為、周辺の店舗に圧迫感を与えないような建物形状とした。	A 省エネルギー ・LED照明の採用 ・エリア毎の点灯回路分け
B 省資源等 ・特に無し	C 緑化 ・市条例の緑化率20%以上の緑地の確保 ・道路際に植樹を多く設け景観に配慮した
	D 雪処理 ・駐車場の一部に堆雪スペースを確保した

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE Sapporo2014v1.2
(仮称)新発寒2条1丁目計画 マックスバリュ棟

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2
■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート	実施設計段階	重点評価項目				重点評価項目	環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		A	B	C	D			評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質												
Q1 室内環境												
1 音環境												
1.1 騒音												
1.2 遮音												
1 開口部遮音性能												
2 界壁遮音性能												
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)												
4 界床遮音性能(重量衝撃源)												
1.3 吸音												
2 温熱環境												
2.1 室温制御												
1 室温												
2 外皮性能												
3 ゾーン別制御性												
2.2 湿度制御												
2.3 空調方式												
3 光・視環境												
3.1 昼光利用												
1 昼光率												
2 方位別開口												
3 昼光利用設備												
3.2 グレア対策												
1 昼光制御												
2 障り防止対策												
3.3 照度												
3.4 照明制御												
4 空気環境												
4.1 発生源対策												
1 化学汚染物質												
2 化学汚染物質												
4.2 換気												
1 換気量												
2 自然換気性能												
3 取り入れ外気への配慮												
4.3 運用管理												
1 CO ₂ の監視												
2 喫煙の制御												
Q2 サービス性能												
1 機能性												
1.1 機能性・使いやすさ												
1 広さ・収納性												
2 高度情報通信設備対応												
3 バリアフリー計画												
1.2 心理性・快適性												
1 広さ感・景観												
2 リフレッシュスペース												
3 内装計画												
1.3 維持管理												
1 維持管理に配慮した設計												
2 維持管理用機能の確保												
3 衛生管理業務												
2 耐用性・信頼性												
2.1 耐震・免震												
1 耐震性												
2 免震・制振性能												
2.2 部品・部材の耐用年数												
1 躯体材料の耐用年数												
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔												
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔												
4 空調換気ダクトの更新必要間隔												
5 空調・給排水配管の更新必要間隔												
6 主要設備機器の更新必要間隔												
2.4 信頼性												
1 空調・換気設備												
2 給排水・衛生設備												
3 電気設備												
4 機械・配管支持方法												
5 通信・情報設備												
3 対応性・更新性												
3.1 空間のゆとり												
1 階高のゆとり												
2 空間の形状・自由さ												
3.2 荷重のゆとり												
3.3 設備の更新性												
1 空調配管の更新性												
2 給排水管の更新性												
3 電気配線の更新性												
4 通信配線の更新性												
5 設備機器の更新性												
6 バックアップスペースの確保												

CASBEE Sapporo2014v1.2
(仮称)新発寒2条1丁目計画 マックスバリュ棟

欄に数値またはコメントを記入

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2
■評価ソフト: CASBEE札幌2014 (ver.1.3)

スコアシート	実施設計段階	重点評価項目				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
		A	B	C	D		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q3 室外環境(敷地内)											
1	生物環境の保全と創出			C		2.0	0.30			2.0	
2	まちなみ・景観への配慮			C		3.0	0.40			3.0	
3	地域性・アメニティへの配慮					2.0	0.30			2.0	
3.1	地域性への配慮、快適性の向上				D	2.0	0.50				
3.2	敷地内温熱環境の向上	B		C		2.0	0.50				
LR 建築物の環境負荷低減性											
LR1 エネルギー											
1 建物外皮の熱負荷抑制											
		A			省エネ届出による	4.0	0.20			4.0	
2 自然エネルギー利用											
		A				3.0	0.10			3.0	
3 設備システムの高効率化											
	BEI 非住宅 0.82 住宅(専有部) -					4.0	0.50			4.0	
	集合住宅以外の評価(3a.3b)	A			BEIm値0.82	4.0	1.00				
	集合住宅の評価(3c)	A									
4 効率的運用											
	集合住宅以外の評価					2.0	0.20			2.0	
	4.1 モニタリング	A				2.0	1.00				
	4.2 運用管理体制	A				3.0	0.50				
	集合住宅の評価					1.0	0.50				
	4.1 モニタリング	A				5.0					
	4.2 運用管理体制	A				5.0					
LR2 資源・マテリアル											
1 水資源保護											
1.1	節水					2.2	0.20			2.2	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用					1.0	0.40				
1	雨水利用システム導入の有無					3.0	0.60				
2	雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.70				
3	雑排水等利用システム導入の有無					3.0	0.30				
2 非再生性資源の使用量削減											
2.1	材料使用量の削減		B			2.4	0.60			2.4	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		B			2.0	0.10				
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		B			3.0	0.20				
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		B			3.0	0.20				
2.5	持続可能な森林から産出された木材		B			1.0	0.20				
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		B			2.0	0.10				
			B			3.0	0.20				
3 汚染物質含有材料の使用回避											
3.1	有害物質を含まない材料の使用					3.0	0.20			3.0	
3.2	フロン・ハロンの回避					3.0	0.30				
1	消火剤		B			3.0	0.70				
2	発泡剤(断熱材等)		B			-	-				
3	冷媒		B			3.0	1.00				
LR3 敷地外環境											
1 地球温暖化への配慮											
			B		評価シートによる	3.6	0.33			3.6	
2 地域環境への配慮											
2.1	大気汚染防止		B		大気汚染物質の発生なし	3.0	0.33			3.0	
2.2	温熱環境悪化の改善		B	C	D	5.0	0.25				
2.3	地域インフラへの負荷抑制					2.0	0.50				
1	雨水排水負荷低減		B			3.2	0.25				
2	汚水処理負荷抑制					3.0	0.25				
3	交通負荷抑制				利便性に配慮し、適切な量の自転車置場、駐車スペースの確保	3.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制		B		D	4.0	0.25				
4	廃棄物処理負荷抑制					3.0	0.25				
3 周辺環境への配慮											
3.1	騒音・振動・悪臭の防止					3.0	0.33			3.0	
1	騒音					3.0	0.40				
2	振動					3.0	1.00				
3	悪臭					-	-				
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制					3.0	0.40				
1	風害の抑制					3.0	0.70				
2	砂塵の抑制					3.0	-				
3	日照障害の抑制					3.0	0.30				
3.3	光害の抑制					3.0	0.20				
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に溢れる光への対策					3.0	0.70				
2	日光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					3.0	0.30				

Comprehensive Assessment System for Building Environmental Efficiency

CASBEE 札幌



重点項目 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE_Sapporo2014v1.2

■使用評価ソフト: CASBEE札幌2014(ver.1.3)

1 建物概要		BEE	1.0	BEEランク	B ⁺
建物名称	(仮称)新発寒2条1丁目計画 マックスパリュ棟	総合評価	★★★★★	★★★★★	
建物用途	物販店				
延床面積	2,974.61 m ²				

2 重点項目への取り組み		レーダーチャート
地球温暖化対策	最重点項目 省エネルギー	<p>この建物は特に 省エネルギー性能 が優れています</p>
	省資源等	
	緑化	
	雪処理	

3. 設計上の配慮事項とCASBEEスコア					
A 省エネルギー				合計	17点 / 24点
Q1 温熱環境	スコア 0.0	LR1 建物外皮の熱負荷抑制	スコア	3.0	
Q1 光・視環境	スコア 3.0	LR1 自然エネルギー利用	スコア	1.0	
		LR1 設備システムの高効率化	スコア	8.0	
		LR1 効率的運用	スコア	2.0	
B 省資源等				合計	14点 / 23点
Q2 耐用性・信頼性	スコア 1.0	LR2 非再生性資源の使用量削減	スコア	4.0	
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0	LR2 汚染物質含有材料の使用回避	スコア	1.0	
		LR3 地球温暖化への配慮	スコア	4.0	
		LR3 地域環境への配慮	スコア	3.0	
C 緑化				合計	8点 / 16点
Q3 生物環境の保全と創出	スコア 2.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	1.0	
Q3 まちなみ・景観への配慮	スコア 4.0				
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 1.0				
D 雪処理				合計	2点 / 3点
Q3 地域性・アメニティへの配慮	スコア 0.0	LR3 地域環境への配慮	スコア	2.0	

4 設計上の配慮事項		
A 省エネルギー		
<ul style="list-style-type: none"> LED照明の採用 エリア毎の点灯回路分け 		
B 省資源等	C 緑化	D 雪処理
・特に無し	<ul style="list-style-type: none"> 市条例の緑化率20%以上の緑地の確保 道路際に植樹を多く設け景観に配慮した 	<ul style="list-style-type: none"> 駐車場の一部に堆雪スペースを確保した

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される